こどものページ

近代文学にみる新宿　　新宿歴史博物館 常設展示解説シート⑧

明治時代の４人の文豪　―坪内逍遙・小泉八雲・尾崎紅葉・夏目漱石―

江戸時代から明治時代へと移り変わるとき、西洋からの新しい文化が加わり、文学も現在に近い形へと変化しました。
ここでは、新宿区にゆかりのある４人の有名な作家を紹介します。知っている人や作品はありますか？

坪内逍遙 つぼうち しょうよう（1859-1935）

■**本名：**坪内雄蔵（ゆうぞう）
■**出身：**美濃国加茂郡太田村（現・岐阜県美濃加茂市）
■**新宿区内で住んだ場所：**余丁町
■**何をした人？：**東京専門学校（現・早稲田大学）で文学の先生をした他、近代文学についての評論をしたり、小説を書いたり、演劇の研究をしたり、シェークスピアの翻訳をしたりと、多方面に活躍しました。
■**代表作：**『小説神髄』『当世書生気質』、『シェークスピヤ全集』（シェークスピア作品の翻訳）　※早稲田大学にある演劇博物館は、逍遙のコレクションをもとに作られてます。

小泉八雲　こいずみ やくも（1850-1904）

■**出生名：**パトリック・ラフカディオ・ハーン
（日本人と結婚して帰化し、小泉八雲になりました）
■**出身：**ギリシア　レフカダ島（ギリシア人の母とアイルランド人の父）
■**新宿区内で住んだ場所：**富久町、大久保
■**何をした人？：**明治 23 年（1890）、40 歳の時に来日。日本の大学で英文学の先生をしながら、日本の古典から題材を得た物語やエッセイを書きました。
■**代表作:**「耳なし芳一」「ろくろ首」などを収めた『怪談』、『骨董』、紀行文『日本の面影』など（英語で書きました）

尾崎紅葉　おざき こうよう（1867-1903）

■**本名：**尾崎徳太郎
■**出身：**江戸芝中門前町（現・港区浜松町）
■**新宿区内で住んだ場所：**北町、横寺町
■**何をした人？：**小説家。読売新聞で連載小説を書き、大人気でした。
■**代表作：**『多情多恨』、『金色夜叉』（連載中に亡くなったので完結していません）

夏目漱石　なつめ そうせき（1867-1916）

■**本名：**夏目金之助
■**出身：**江戸牛込馬場下横町（現・新宿区喜久井町）
■**新宿区内で住んだ場所：**喜久井町、新宿一丁目、新宿二丁目、矢来町、早稲田南町
■**何をした人？：**大学で英文学を教えていたけれど、雑誌に「吾輩は猫である」を書いたら大好評！ 先生を辞めて朝日新聞社に入社し、新聞小説を書く作家になりました。芥川龍之介をはじめ、たくさんの門下生も育てました。早稲田南町の家は「漱石山房」と呼ばれ、毎週木曜日には門下生たちが集まっていました（「木曜会」）。
■**代表作:**『吾輩は猫である』『坊っちゃん』『三四郎』『それから』『門』『こころ』『道草』など　　※漱石山房記念館でさらに詳しく知ることができます。